

『これまで、これからも』

続けていくノーリフティングケア

社会福祉法人 桂川福祉会



社会福祉法人 桂川福祉会 特別養護老人ホーム 明日香園



特別養護老人ホーム

明日香園 の簡単な概要

入所定員

入所50床 ショート20床 (計70床)

特養職員数

責任者1名 介護職24名
機能訓練指導員1名
看護職6名 (派遣、パート含む)



山に囲まれた自然豊かな場所にある施設です

福岡県ノーリフティングケア普及促進事業1期生

まず振り返ってみると……

ノーリフティングケアに出会う前は
毎日抱える事が多い介護

身体的にきつい
ことが多く、腰痛
などが原因で退職
する職員もいました



施設長、責任者から

「これからは誰でもできる介助が主流になる」

ということで

ノーリフティングケアに出会う。

初めはデモ機のリフトを使おうとするが、抱える
事に慣れている為使用しない事が多かった。

『抱える』 = 『速い』『早い』
という気持ち強いという現状。

利用者様のケガも多く、職員の身体の負担も……

使わないと使えない！という文化づくり

ノーリフティングケアを開始して最初に始めた取り組みとして

スリッパ廃止し
靴の統一



小さなことからコツコツと

使わないと使えないを
口癖のようにして

用具や環境に慣れていくこと
『使う』という環境にしていく



リフトなどを使うことが当たり前になってくる

少しずつ福祉用具も増えてきて
使用する事にも慣れてくる



リフトやボードでの移乗に慣れてくると、入浴の負担の声が多くなる

機械浴がリフト
になり抱える負担が
軽減される

数年後

普通浴にもリ
フトが入る



ノーリフティングケア開始から数年経過し
職員が慣れてきた頃

施設長がこんな事を言っていた

夜勤明けで帰る職員の顔が
以前のように疲弊しきった顔
とは変わった。
疲れてはいるが表情が全然
違う！



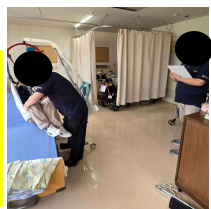
社会福祉法人桂川福祉会
特別養護老人ホーム明日香園
施設長 野見山直博氏

時の経過などにより入所者様の重度化も見られているが、普段から福祉用具など使用している為、職員から「〇〇さん、そろそろボードは厳しいのではないか」など提案が多数出る事も多くなってきている。



フレックスボードからリフトに変わった入所者様ですが、体重が重くスリングシートの装着など2名で対応している。

内容によりリスクを抽出し、改善に向けて対応している



普段から技術チェックなど実施している為、対応が変わる際に活用することができる

リスク対象者氏名	山城 ユリ子 様
現在の状況 (抱えているリスク)	移乗時身体力感が強く、仰け反りや足を伸ばされる。
使用している福祉用具 (移動)	重い ■ チルト ■ リクライニング □ チルトリク □
歩行器 □ シルバーカー □ 手引き歩行 □ 自立 □	
移乗方法	移乗 ■ 立位 □ リフト □ ボード □
椅子への座り替え	あり ■ なし □
排泄方法	
オムツ (使用しているトイレ)	
できる動作協力	
おしその調子により立たれるがふらつきあり。	
立位後の姿勢	膝前15分ほど30度でギッチアップをする。移乗はボード移乗。どの時間帯もスムーズに移乗できたが前日、移乗した職員が日記に記載する。座り替えは2名で対応し1名が前日、もう1名がおしりを支える。
・移乗時本人と職員に負担がなくスムーズなボード移乗ができるようになる。	

変わる教育のスケジュール

現在の技術に関する現状として…

技術チェックに対して合格するという意欲が薄くなっており、予習や復習をしているかもわからない職員がいるという現状。

不合格が続き置いてけぼりになる職員も少なくない

そこで、新年度より教育のスケジュールの作り方を変え、セルフ予約化をする

明日香園取り組みの一部「教育係」の始めた**新たな取組み**。技術チェックは今まで教育係がスケジュールを組んで職員1人1人振り分けていたが、今年度よりスタイルを変更し、職員が自ら**自分のスケジュール**を組むように変更した。

受ける人、モデル、チェッカーそれぞれを受ける人が声掛けて予約という形をとるようにしている。

受講点数の見える化

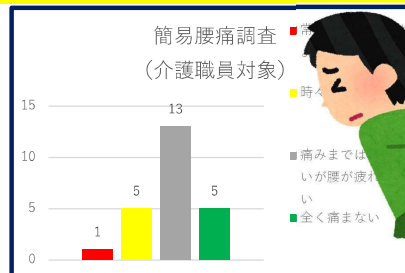
そして受講した人の点数は貼り出して見える化することで意識向上を図るようにしている。

不合格の場合その月だったら何度でも受けるが、その都度受ける職員がモデルとチェッカーに予約をする。

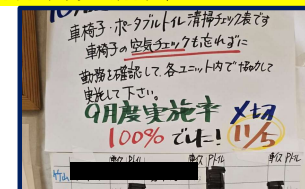
技術向上や基礎が大事な事、福祉用具はこんな効果があるよ！という一言も添えて技術向上意欲を掻き立てる工夫も大事!(^^)!

まとめ:ここまで進んだ

まだまだ腰痛保持者はいますが、良く言えば腰痛があっても働ける施設



他の取り組みとして、福祉用具管理からは車椅子清掃の定期化により、毎月車椅子清掃率が100%になる。



毎月張り紙して、清掃クリアすると日付を記入するスタイル



ノーリフティングケアを始めて介助中の事故は減っています。今後も職員の腰痛の軽減や入所者様のリスクマネジメントで安心安全な生活ができるように委員メンバー頑張っていきます。